第七話

生活と上水・下水

～思い出と一言～

村野栄子

紹介（村野栄子さんのプロフィール）

村野さんは大正二年、現在の秋川市、昔は「たさい村」と言ったようですが、でお生れになりました。お年は七六才。東京女子師範を卒業され長く小学校の先生をされていました。お父さんが理科の先生だったそうで、その関係から牧野富太郎先生にもご面識があったと聞いております。結婚されてから福生市にお住まいになっております　村野さんに面識を得たのは研究会の有志が三年前に『近世（江戸時代）以降の多摩川流域の下水文化の変遷と考察』と題する研究を行った時でした。この研究では四二名あまりの古老から昔の生活、水の使い方と捨て方等の思い出を聞き取りました。その際村野さんのお宅にうかがったわけです。村野さんは、一度会ったら忘れられない明るくて愉快なお元気なお婆さんです。僕達の印象に特に残っているのは、今日お持ち下さったお饅頭なんです。このお饅頭は、今朝四時に起きて、あんこを二時間かけて炊きあげ、粉を練ってお作りいただきました。とても美味しくて、その味が今もって忘れられません。それからお話が本当に生き生きしています。そのことはこれから証明されるだろうと思います。ご紹介はこの程度にいたします。

司会　研究会の一つの課題として昔の生活文化を調べ、それを現代的に生かして行く方法を考える、いわば温故知新という課題があります。

笑い話なんですが、イタリアのある村でワイン祭が行われていた。村の真ん中に大きい樽を置き、各自その年に作ったワインを持ち寄って、その樽に入れ、感謝を捧げてワインを飲むわけです。たまたま不作の年に自分一人位分からんだろうと水を持っていった。お決まりの行事が終わってワインを飲む段階になった。さて飲んでみると全くの水だった。

この笑い話は、環境保全にも示唆するところ大なるものがあります。全体の環境を守って行くためには公に全てを任せれば良いというのではなく、一人一人が工夫をして行かないと守り切れないだろう。この事が段々分かってきて、各地にそのような動きが出て来ています。個人個人の生活は決しておろそかに出来ません。私は、そういう認識を持っております。今日の村野さんのお話を私達の糧としたいと

思います。

村野

このような場に招かれるとは夢にも思いませんでした。その場に行けば口が開かないのじゃないかと不安でした。そう思いつつ来ましたが、皆さんの顔を見ますとその不安もなくなりました。世の中交わるべきだなとお会いしてそう思っています。今日は恥ずかしいですが、今までの経験を踏まえて皆さんの質問に答えてゆきたいと思います。

（司会　せっかくお作り下さったお饅頭、いただきながらお話を伺いましょう。）

どうぞ召し上がって下さい。初めてお越し下さった時にこのお饅頭を焼いて笊に盛って出しましたら、「うまいなうまいなー」と食べて下さったんです。そのことを思い出し、今日は良い機会に巡り合わせましたので、朝四時に起きましてね、早起きしないとここへ来る精力が無くなると思いましてね、それから小豆を煮て作ったんです。

十日程前に今日の通知をいただきました。それから一生懸命、誰と会っても話が出来るようにしなければならぬと準備しました。私の家は多摩川から二百メートル程離れた所にあります。毎朝二十分程多摩川の土手を歩いています。都会の人達と膝を交えて話をするには健康が第一ですからね。こんな風に皆さんとお目にかかる下準備を心身ともにやって参りました。いかがですか、お饅頭は。

（「美味しいです」の声あり。）

時々同年配の人達との会合がありまして、お饅頭等を持って行くのです。そうしたら「村野さん、この作り方を教えて欲しい、あれの作り方を教えて欲しいー」と頼まれる。それで最近は手作り教室というのを設けまして、一週間に三回位、二グループか三グループですが、なるべく昔ながらの方法でやろうと決心しまして、皆でこのようなお饅頭等も作っているのです。一週間位前に桧原の方の知らない方から「村野さんは、糀寝かせられるんだって」と尋ねられました。「ええ、寝かしてお味噌もついています」と答えたら、「是非教えて下さい」と頼まれる。そこで「今日お米を研いで、蒸して糀を寝かせますから、糀が寝た時点で電話をします。そしたら来て下さい。」、「はい、行きます。」。やはり教えて下さいと言われるほどの意気込みのある方ですからこういうお返事です。こんなこともしているんです。何事も元から研究してみようかなと思いまして、糀作りなどもしています。私が嫁に来た時は、母がよくやっていました。母から直接指導は受けなかった

のですが、一家の主婦になれば田舎のどの家でも作っている味噌等も作らねばなりません。そこで近所のお婆さんに「糀作りはどうすれば良いの」と尋ねました。お婆さんは、「わけはないよ、米を洗って蒸して、セイロでなくても御飯蒸しでも良いんだよ。蒸したら冷まして、貰ってきた糀を混ぜて、木綿の風呂敷か何かに包んで、少し暖かにして、暖かい所に置けばいいんだよ」と簡単に教えてくれたのです。「じゃ、やってみよう」とやりましたら、昔の農家で出来たお米ですから、今のお米じゃありません。今のは、いろいろ工夫してあるようですから、あまりうまく出来ないのです。昔の穫れたばかりのお米ですから糀菌が発生しました。「うちの母もよくやっていて、ことさら聞きもしなかったけれど、こういうふうに出来るのだわ」と思い、それから糀寝かしに興味を覚えまして、お味噌も作るようにしましたし、甘酒もつくります。酒の滓を買って来て作るのでなく、おかゆを炊いて、冷めたところへ糀を混ぜて、近所のお婆さんが「暖かい所に置いてごらん」と言いますので、風の来ないような所に鍋に入れて置いておきましたら、プンプン臭って来たのです。本当に家の中じゅう甘酒の薫り。それで砂糖を入れて家の者に飲ましたりしました。手作りは、昔ながらの味がして美味しいものですから、今でも煮物でもお漬物でも手作りのものを食べています。

朝のおみをつけも実を七種類以上入れることと自分に言い聞かせて作っています。田舎ですから何かしらあります。大根、ニンジン、それにジャガイモは近所のお百姓が一年中もってきてくれますからね。農村の恵みでいただいたものを縁の下の貯蔵庫に入れておいて一年中使っています。主人と二人ですからお椀に四、五杯の水を鍋に入れ、煮干しの粉を入れます。この粉は、最高の煮干しを乾物屋さんで買って来まして、三日位外で干し、焙烙で軽く炒って、それをすり鉢でよく叩いて、金の笊で振い、頭から骨まで全部粉にして缶に入れておいたものです。おみおつけのだしに使うのですね。スプーン一匙です。これは最高のだしで、余所の人も「美味しいね」と感心します。後は七種類の野菜を入れるんです。何でも手近にある野菜です。葱をいただけば葱、大根をいただけば大根、みんな地面に植えておくんです。葉ごと根ごと持ってきてくれますから、そのまま地面にいけて、水をやったりして、必要に応じて取ってきて使うわけです。

七種類というととても多いでしょう。足りない場合はどうするかというと、家の周りの生け垣まで行くんです。私の家の周りには茶の木があるのです。昔は田舎では家の境の生け垣に茶の木を植えておき

ました。やたらに木等植えないで、そうしたんです。一挙両得ですから。春になるとその茶の木から芽を摘んで、お茶を作ったものなんです。生け垣の根っ子にはいろいろな雑草がはえているんです。そこには「はこべ」や「にら」等もあるんです。にら等も鳥が種を落としたのか植わっているんです。「のびる」等もね。そういう食べられる雑草等も取ってきて、七種類から八種類にしておみおつけにして食べるんです。自分で作った味噌、だし、煮干しですね、それから自然の新鮮な野菜、そうしたもので食卓を楽しくしているわけです。とっても美味しいんです。

漬物は一年中ほとんど糠味噌ですね。秋は大根や結球も漬けますが。糠味噌も現代のプラスチックの桶ではなく、昔の家ですから三つ四つ桶があるんです。一斗樽があり二斗樽があり四斗樽まであります。四斗樽は白菜等結球を漬けるんです。今では使いませんが、何時の日か役立つ日もあろうと捨てずにいるんです。一斗樽は三つ四つありますが。二斗樽にはお味噌を作って入れておきます。

大根や蕪のような根菜類をいただきますと、すぐに洗ってこれはお昼に食べる、これは夜に食べると決めて、切って糠味噌に漬けておくのです。お友達の所に行きますと、「村野さんの所ではお香香なあに」と言いますから、「内は一年中糠味噌があるの。」と答えました。すると「糠味噌の美味しい糠があるよ」と言います。「へぇー、どんなもの」と尋ねると、小さな袋を見せてくれました。近代的ですね、中に薬が入っているんです。大根をお香香のように切って丼茶碗に入れ、この薬を混ぜるとお客が来ても直ぐに糠味噌の味で出せると言うんです。やってみましたが、やはり薬の糠味噌と一年中作ってある糠味噌の味とは全然違いますね。私は、薬のものは舌に合わないんです。味の元も駄目なんです。現代科学を悪く言うわけではありませんが、科学的な味が舌に合わないので、自然のもので生活して来ました。新しいものが合わないので、いけないのかなと思うのですが、これで生きてきて後幾年もないから今まで通りの生活を続けて元気に生きて行こうと思っています。煮物でもお醤油は家で搾るわけにはゆきませんから仕方ありませんが、味噌だけは家のものを使います。都会でも味噌位は自家製のものが出来ますよ。わけないですよ。瀬戸物の瓶、プラスチックは感心しませんが、でお味噌も作れると思います。食物は、なるべく新しい自然のものを食べるようにするんです。

食べられる植物を知っていることは大切ですが、それに関連して牧野先生のご指導について思い出されます。牧野先生について三度位御嵩の方に行った

ことがあります。先生は偉い方で、「先生、この植物何という名ですか」と尋ねても教えないのです。「そうだな」と首を振ってしばらく眺めていて、「何科だと思う」と聞くのですね。時には科名が分かることもあるんです。丁寧に教えて下さいますから。でも「分からないですね」と言いますと、「では科名だけ教えるから家に帰って調べなさい」って。そういう教え方で牧野先生には教えていただいたのです。立派な方ですね。教え方も「こうだよ、こうだよ」という教え方じゃないんですね。今度牧野先生が来られるというと、随分下調べもして行きました。野外指導でも下調べをして行くというのは大事な事だと思います。私も子供を集めて、同じようにして教えることがあります。東京でも自然のものは案外とあるんです。それにマンションにお住みの方は仕方ありませんが、土のある方は「にら」や「はこべ」等を植えられると良いですね。すごく増産出来ます。そして増産する植物は、体の中に入っても強いですからね。種を撒いて、お作りになったらいかがかと思います。おみおつけは、一品の実ではなく、幾種類も入れられたら良いのじゃないかと思いますね。

私は、このような生活をしておりますが、さて水ですが、小さい時田舎で育った方がおられると思います。私も大変面白く田舎の水生活をして来ました。学校に上がらないほどの小さい時は、井戸です。各家に井戸を持っているような状態は滅多になかったんですね。井戸掘りはすごくお金がかかるものですから。お金のある家でないと井戸掘りはしなかったんです。井戸を掘って、沢山石を買って来て、それを積んで井戸を作るのですが、一つの井戸を三軒なり四軒で使うのです。遠くの家から、そうですね、二百メートルも離れた所から毎朝毎朝天秤棒をかついでお嫁さんが水を汲みに来る家もありました。それを大変だとは思わずに、「あそこのお嫁さんがカチカチ下駄の音を鳴らして来たから起きないといけないな」と思いましてね。そういう時代に私は生まれました。一つの井戸がかなり混むのですね。昔だってかなり水は使いましたから。私も貰いに行った仲間ですよ。手桶を両手に持って行って、貰って来るんです。貰って来ると、一番最初に顔を洗いましたが、私の母は大変厳格な人間で、木の柄杓で一杯きりしか使わせないのです。一杯きりですよ。その一杯の水を洗面器に移し、最初手を二回ほど洗い、次に口をすすいで外に吐き出し、残りの水で三回位顔を洗うともう洗面器の中に水が無くなる位です。それで朝の洗面は終りでしたね。今考えてみますと、それで充分な量でした。今はそんなことはしていま

せんがね。水は本当に大切なものだったのですね。そういう水の使い方をさせられました。お風呂に入りましてもその通りで、入る時に洗面器に一杯の湯を汲んで、それでよく洗って入る。手ぬぐいは持って入ってはいけなかったんです。絞って蓋の上等に置いて、浴槽にじいーっとして温まり、それから外に出て洗面器半分位の水でよく洗って、もう一遍よく掛けて、改めて浴槽に入ります。中では手を使うことは出来ましたが、布で洗うことは出来ませんでしたね。

お掃除をする時もやはりバケツに二杯位貰ってきて、雑巾を濯ぎます。使った後の水は、近くの溝等にただ流すのではないのです。大抵庭の木に掛けたり、あるいは畑があれば菜っ葉に掛けたりして、水を丁寧に皆に分配してやりました。雨が降ると、水が入るだけの桶やバケツ、あるいはお勝手で空いている鍋等も持ち出して、樋の水を受けて、それをお風呂に使うのです。もっとも降り始めの雨水は受けずに、しばらく待ちますが。親達も考えて、お勝手で使う水にはしなかったようですね。余ると木の盥に入れておきます。それは翌日のお風呂の水に使わせられました。このような事をしていたのは私の親ばかりではなかったと思います。ともかく水は大事にしたものです。それから雨が降ると掃除をさせられるのです。沢山水がたまります。だからこの時に全部よく掃除をしておけと言いましてね。もうトイレの拭き掃除から何から、親に言われない先から縁側から敷居からやりました。

「こうして拭くんだよ」と、昔の人は細かい所をよく教えてくれましたね。私等は水使いは本当に丁寧に使いました。お米を研ぐ時にも家に汲んできた水で研ぐのは大変なので、きれいに白い水が出なくなるまで研ぎたければ、「井戸まで行って貰った水で研いできな」と言われるんです。家で洗った時は米の研ぎ汁もやはりとっておきまして、庭の木の根に掛けるとか畑に掛けるとかさせられました。

皆さんが今聞いたらいかにもわざとらしく感じるかもしれませんが、昔は本当に水が貴かったですね。ですから私達小さい時には、お風呂の水で洗濯をしますね、洗濯物を絞ってそれから近くの川にゆすぎに行きました。昔は近くに小さい川、大きい川、大抵みんな流れていたものです。田の中等も相当大きい川が流れていました。山の清水も川を作って引いてきてよく使いました。手ぬぐい、ハンカチ、足袋のような小さいものは、そういう小川でゆすぎ、大きいものはバケツに入れて下の川へゆすぎに行きました。すると川では小さい子が遊んでいます。二人、三人でハヤメ等を取っています。随分遠くからもゆ

すぎに来るんです。ゆすぎ水まで井戸水は使えませんから。子供達は上の方では遊びません。必ずおばちゃん達が洗濯しているからというので、下流の方に行って魚取りをするんです。随分礼儀正しいですよね。そんな事も今となっては良い思い出になるんです。

男の子等がおしっこが出たくなっちゃった。すると川の水の上にボチャボチャするのがまた面白いのですね。そういう時には親におそわったのでしょう、「川の神様、ごめんなさい」と言いながらボチャボチャやるんです。男の子はよくやっていましたがね。そんな川遊びなどもしました。川の底は小石や砂利で綺麗なんです。夏等は泳いだりもしましたね。私は小さい時に姉や母の後ろについて洗濯のゆすぎや大根等を洗いに行った川が今はどうなっているかなと思って、この間行ってまいりました。私は、今の秋川市、元は西秋留で生まれました。主人に連れて行ってもらいましたが、昔の川がないんですね。昔は上流に水車がありました。そこのおじさんはどうされたかなと思いましたが、まるで浦島太郎のようで見知らぬ人ばかりでね。なつかしいやら寂しいやらという思いをしてきました。

私は水の科学をよく知りませんが、娘達はパンフレットを見たり本を見たりして、この水がどうゆうように今に人間に害を与えるかしら、早くなんとかしなければと私の所に来ては話すのですが、「お母さんは、そこまで神経を尖らせると長生き出来ないから、せめて出る水を丁寧に使って生きて行きます」と言うのです。

私の水の使い方ですが、お茶碗やお皿が空いて流しに入りますと、小さいボールに水を入れてそこで下洗いをします。洗ったものは伏せておきます。それから水道の栓をひねって細い水で最後を洗うようにするんです。最初にいろいろなものが付いていたお茶碗やお皿を洗った水は、私は流さないんです。その水はバケツにとっておいて、後で庭の木や草花にかけてやるんです。朝でも昼でも晩でも下洗いした水がバケツに一杯になると、そうするんです。すると偉いものですね。御飯のおねばがくっついた茶碗の下洗いの水でも、それをかけてやると非常に育つんですね。ああ、もったいない、水ももったいないが、食べられる物の滓もまたもったいないな、私はそういうことを感じます。そして自然は循環なんだなと思います。私が考えますのに、水等は循環させれば、地面を循環して作物を大きく育てるものなんですね。だから下水へは流さずに、夜寒くてもとっとと外に出て掛けて来るんです。菊等も色が良く見事に育ちますね。すると私もつい見に行きたいで

すね。毎朝、毎夕水をやったものですから見に行きたいですね。菊等はいくら見ても同じようなものでしょう。でもやはりみんな一様にづっと見て来たいですね。それがまた心の静かな喜びではないかと思いましてね。そうして水を大事にしています。何時頃からこんなことをするようになったのかしらと思い起こしてみましても分かりません。恐らく母の精神が乗り移っているのではないかと思いますね。

瑞穂町に姉がいるのですが、ある時－お宅では水道料どれくらい払う－と尋ねたことがあります。すると「千円位だよ。嫁さんの方は一万円位払うらしい－と言います。それでどんな使い方をしているのか尋ねてみました。そうしたら「お母さんに教えられたような水の使い方をしているよ。流しでそんなにジャブジャブ使わない－と言っていました。やはり一家の主婦の教育は偉大なものだと思いました。

人間というものは、脳味噌をいただいているのですから、大いに使ってもいいのじゃないかなと考えましたがね。今は難しい科学が進歩しています。そういうことにも付いて行かねばならないでしょうが、簡単なことにも脳味噌を使ったらどうかなと思います。水を丁寧に使うということは、循環なんですね。ただ流してしまわないで循環と思って植物に掛けてやるということが、私達の努めではないかなと思いますがね。この辺りで一応私の話は終ります。

討論

石田　自分にてらして大変なつかしいようなお話をうけたまわりました。生活習慣が子供に大変厳しく躾られている点、私も昔を思い出してなつかしくまた興味を覚えました。最近は便利な世の中になり、生活習慣が大分変わってきて、親が子供に習慣として教えるようなものがなくなってしまった。例えば電気掃除機等は教えるというようなものでもない。このような事が子供の非行や教育面で多少は関係があるのかなと考えたりもします。かなり厳しく親から、あるいは自分の周りの社会から子供に教えられる事の影響ですね、どのようにお考えになりますか。

村野　影響はあるでしょうね。公民館に老人が集まっていろいろな話し合いをする場があるんですが、そういう所で「今の子供は」とよく聞かされます。「道を掃いていたら箒をふんずけて行ったから背中をはたいてやった。大人の掃除に感謝の気持ちがないのかしら」ってよくそんな話が出ます。でも私は言うのです。「私の家の裏を通る子供はそんな子供は一人もいないよ」って。私が「行ってらっし

やい」と言うと、「行ってきます」と素直に答えます。男の子等は、うれしそうに笑いますね。今日は久し振りに電車に乗って来たのですが、子供さんの教育に親がいいかげんなのかしらと感じることがありました。昔は物質をもとにして教育をしましたね。物をそまつにするのじゃないよ、御飯の食べ方でもこぼさないように食べるのだよと、本当に細かい所から家庭で教えてくれました。着物も学校へ行く時の着物、家で着る着物とちゃんと区別していました。昔と今とでは家庭の中でも社会の中でも教育の仕方が違うようですね。私の家の近くは農家が多いのです。それで大変地味に暮らしているんですね。毎朝落葉で道路が一杯になるんです。だから朝早く掃くんですが、登校時間に当たると子供に必ず「行ってらっしゃい」と言うのです。するとちゃんとお辞儀をして行きますね。やはり家庭教育があれば、地域社会の教育もあるのじゃないかと考えますね。出来れば私達も地域に帰れば、子供達が遊んでいれば仲間に入ってもよし、登校下校の際には一言言葉をかけてやってもよし、というような事を考えますね。私達小学校時分には放課後は全校生徒で各教室のお掃除でした。先生が一緒になって一隅はこうして掃くんだ、それ以外はこうして掃く、そしてごみはこうしてとる。」と先に立って教えてくれました。校長先生も教頭先生も出て、掃除の仕方を教えていましたね。竹箒の使い方などね。小さい時は脳味噌がふわふわしていますから、私等もよく覚えていますね。それに昔は家庭教育も案外しっかり出来ていたのでしょう。

野村□　私は今回の参加者の中で恐らく一番若いと思います。子供の頃を思い出しても村野さんのお話とは違って、今とあまり変わらないような気がします。食生活でも油っ濃いものが大好きで、コレステロールに気をつけるように注意を受けます。質問ですが、今は水道をお使いですか。それから水の味はどうですか。

村野　水道です。今はどんな山間地でもそうじゃないでしょうか。檜原はどうかな。前に檜原へ行った時には「ほっすの滝」の水を檜原の街全体に配水していたようです。四角い樋で引いていました。ついこの間檜原に行った時にはその樋がなくなっていました。

　それから味ですが、井戸水と水道の水とは味が違います。今の井戸水はかなり汚れています。時々私は検査に持って行きますが、濁ったよと言われますね。ですから土を落としたり、下洗いには使いますが、それ以上は水道の水を使っています。でも味も元は違いました。飲んでも差し支えはない程度のよ

うですが、幾分濁っていると言われますので、この頃は飲んでもみないんです。深い井戸ですから下水があまり入るとは思えませんが。

渡辺　田舎で育ち東京に出て来て五十年以上経ちます。子供の頃、お話のような生活を私もしていました。でも井戸が飲用と百姓用と二つあり、水はかなり無駄に使っていました。ですから村野さんの所は水で苦労されたと思いました。

木下　お話を伺って井戸について興味を引かれました。富山の生れ、四十二才です。私の家では井戸が水道に切り替わったのは、私が中学に入る少し前位の頃でした。家はかなり海の側で、井戸は四軒で使っていました。井戸は流れている井戸でした。湧いて来るので、常に滔々と流れているのです。井戸屋さんが井筒で深くしたものですが、冬は暖かい風のある日など手をつけるとまるでお湯のように感ずる、ところが夏は逆で麦茶を冷やしたり西瓜を冷やしたりします。ですから井戸端で遊んだりしました。水道が出来てしばらく塩素の関係か変な味だと思いましたが、直ぐに慣れてしまいました。それからは水の大切さを意識せず、あるのが当たり前という感覚で暮らしてきたというところが偽らざる状態です。ところで村野さんの井戸は溢れていない井戸ですか。

それから樋の水をお風呂に使われたわけですが、屋根の雨樋の水ですか。どういうようにしてその水を溜められたのですか。

村野　溢れている井戸ではありません。どの家でも車等を付けて汲み上げていました。でも皆が洗いものに行く池がありましたが、その池の一番源では滔々と湧き出していました。そこでは源の近くは洗いもの厳禁でした。そういう井戸もありました。但しそこへはバケツを持って汲みに来ることはありませんでしたね。ですが良い水のようでした。源の近くで鯉を飼っていました。一箇所だけでしたが。最近は、そこも水が出なくなったようです。

それから樋の件ですが、屋根の雨樋の水です。しばらく雨水が屋根の汚れを洗い流します。そうしてから雨樋の水を受けて使ったのですが、とても綺麗な水でしたよ。親が降ってきたばかりの雨水は駄目というので、そうしたのだと思います。ともかく綺麗でした。

木下　最後に教育に関連して報告しておきたいことがあります。私は、仕事柄地方で調べ事をすることが多いのですが、ある時道を尋ねたら直立不動で丁寧に教えていただいたことがあります。これには大変感動しました。そういう所も残っているという事をお伝えしたいと思います。

村野　地域によってはとっても礼儀正しい子供達の事を聞きます。やはり大人の広義の無言の指導ではないでしょうか。そんな風にしたいものですね。

細場（日）村野さんは、いかに捨てるかではなく、いかに生かすかを考えておられます。本当にお話に感動いたしました。今の若いお母さん達の生活方法や育児方法に不安を感ずることがあります。どうすれば良いのでしょうか。

村野　日常生活を家庭においても社会においても自分で正しいと思うように、影日向なく動いていけばいかがでしょうか。私はそう思いますね。子供と行き合った時、ニコニコとする地域の子供、何の気もなく大威張りでかつ歩して行く子供、いろいろあります。でも常住座臥という言葉がありますが、自分が正しいと思う態度で接することではないでしょうか。柔らかく自分の態度を子供に見せるようにしていただく事が良いと思います。細かい事からご自分で範を示すようにされるといかがでしょうか。

西木田　お饅頭有り難うございました。昔おふくろが作ってくれたのは中が芋あんだった事をなつかしく思い出しました。毎日の生活のなかに脳味噌を使わねばならぬことが一杯あるのだということを改めて教えられました。質問ですが、雨が降った時に一生懸命掃除をされた。それでは降らなかった時はどうだったのでしょうか。それから川の洗濯場には板等で洗い場が出来ていたのですか。

村野　板で出来ている所もありました。でも板の上にはあまり乗っていませんでしたね。寒い時は別ですが。石を持ってきて、水辺まで段を作り、足に水がかからないようにしていたようですね。橋もかかっていて、その上でやっている人もいました。家で一応洗ってきますから、すぐだけでした。それから掃除はもちろん雨が降らない時でもするのですが、雨の時は特に念入りにしたのです。

石井　私は、消費が美徳の世代に育った者ですが、大変参考になりました。本等も買ってきて読んだら、必要な所をメモして捨てるとか、物は役割を終えるとみな捨ててしまうとか、そんな風に育ってきました。家が狭くて邪魔になるからでもありますが。ところが公害問題や環境問題が出て来て僕達の世代は今までやってきた事の価値観について悩み始めるわけです。それではどのように変えて行けば良いのか。そこでお伺いしたいのですが、昔はリサイクルの仕組みが地域をベースにしてあったのか、その辺りはどうだったのでしょうか。

村野　地域にそのようなリーダーになる人がいれば良いのですが、いろいろな批判も出ますからなかなか難しいと思います。私も良いリーダーが出て

来ればどんなに良いだろうと思わないではないのですが。だから昔は再利用は個人の力によって進められたと思います。

稲垣場　村野さんのお母さんは明治何年頃のお生れですか。

村野　明治の中頃です。強い母でした。武士の子供だったのです。先日も菩提寺へお参りに行って来ましたが、昔の古い墓碑があります。姉の話では武士精神を強く受け継ぎ、どんな事があっても家系を保って行くのだというので、その石碑を建てたそうです。

谷口　最後になりましたが、ご家庭で村野さんとご主人とは何か役割分担をされていますか。

村野　主人は、男としてのいろいろな仕事がありますね。家の中ではほとんど何もしませんね。ほとんど外で大工仕事をしていますね。道具は本当に沢山持っていますよ。自分に出来ないのは畳屋だけだって言っています。家の中の事は何もしませんね それから歴史や英語をよく勉強します。福生は進駐軍がいますから、外で外国人をつかまえると熱心に話していて面白いですよ。英語が好きなんですね。

谷口　本当に有り難うございました。生きる術、生き方まで教えていただいたような気がします。心から御礼を申し上げます。（拍手）　（完）